

What's happening?

私にとって日本は

工学部特別聴講学生
朴志訓 [韓国]



日本に来て5ヶ月になりました。最初徳島に来た時、すべてのことが韓国と全く違うと思いきや驚くことばかりでしたが、今はもっと客観的に「日本はどんな国か」を考える余裕ができました。外国人の視点で見た日本人の姿は、他の人に気を遣わせず相手を配慮する心ではないかと思えます。例えば電話をする時、友達や年上の人と話し始める前に丁寧な挨拶の言葉を使うことがとても多いです。また電話を切る時は、必ず相手の電話が切れるまで待ちます。最初はこのような習慣の差異で困ったこともあります。このような場面で日本人の相手を配慮する心が感じられました。

ただこれだけではなく、目に見える文化の差もあります。私は建築を勉強していますが、日本の木造建築や住宅街は韓国や他の国とは完全に違う、日本だけの文化の一つだと思います。韓国の場合、高層アパートも一般の住宅も重いコンクリートや煉瓦で建てられています。しかし、日本の場合はどの住宅地へ行っても大部分の家が木造の建物でした。初めてホームステイで日本の家へ行った時、家の中が韓国の家の中ととても違って驚きました。木造は地震に強いという理由もありますが、日本の住宅街、美しい庭などの日本特有の風景は他の国では見られないと思えます。

日本に来て私が一番驚いたことは、先生と学生の壁が低いことでした。先生は学生の意見を尊重し、学生は自由に発言できることに驚きました。最近、私は徳島大学のESR (English Support Room) で学生生活の半分を

留学生滞在記



過ごしています。ESR は私が日本に来て初めて友達を作った場所です。お互いに足りない部分を教え合いながら英語の能力を伸ばすことができます。でも、ただ勉強するだけではなく人に会える場所でもあるし、お互いの文化の違いを学んで共有することもできます。ESRにはSTEVE先生や他の先生がいて、一緒に話したり悩みの相談にのってくれます。このような場所は韓国では見たことがなかったので、徳島大学の学生が本当にうらやましいです。

今私は建築工学を勉強しています。まだ日本語が上手ではないので講義のすべての内容を理解することは困難ですが、日本に来たことは私にとって二度とない経験だと思い、一生懸命がんばって勉強しています。交換留学で徳島大学に来て生活し勉強する機会を得たことは本当に幸運だと思っています。あと6ヶ月も後悔のない楽しい時間を過ごしたいです

海外体験記

総合科学部人間社会学科3年
松田美咲 [まつだ みさき]



2010年3月から2011年3月までの一年間、私は中国南京大学に語学学習を目的として留学しました。初めは、慣れない海外生活や、クラスメートのレベルの高さに、戸惑うばかりでしたが、徐々に馴染んでいくことができました。南京は、中国中東部にある江蘇省の南部に位置し、夏は中国三大かまどのひとつに入るほどの猛暑、冬は氷点下にもなるほどの寒さと、気候の変化が激しい都市です。しかし、いざ生活してみると、食べ物の味付けは辛すぎず、濃すぎず、口に合うものが豊富にあり、人の気性も比較的温厚で、のんびり屋の私でも対応でき、とても暮らしやすいところでした。

私は留学生活のなかで、教室での学習だけでなく、多くの中国人と関わることに努めました。授業が終わると、中国人の友達と一緒にご飯を食べたり、会話の練習をしたり、太極拳をしたり、街を観光したりしました。また長期休暇には広い中国を旅行し、様々な体験を共にすることができました。ある時、日本の学生について友達に尋ねたところ、「冬でも短いスカートをはくなんて、信じられない。もし、中国でこのようなことがあれば、両親が許さないだろう。」と話して

いたことが印象的でした。机の上で勉強しているだけでは気付かない、国による考え方の違いや、文化の違い、習慣の違いなどを、肌で感じた瞬間でした。中国では一人っ子政策の影響から、親が子に注ぐ愛情がとても大きいのです。甘やかすすぎるのが問題ですが、教育に関しては非常に熱心です。子どもたちも親の期待に応えるべく、朝から晩まで懸命に勉強します。大学の図書館は、開館前になると、自習するスペースを確保するために集まる学生たちで長蛇の列ができ、中に入ると、机にあふれるほどの本に埋めながら勉強する姿に、目を奪われました。これは、13億人を超える人口のなかで、能力を身につけ、自分で意見を主張していかなければ、競争社会で勝ち残っていくことができないという、中国人学生の意識の高さを表していると思いました。

私はこの一年間、実際に広大な中国で生活し、日々、生の中国人に触れ、意見を交わしながら、多くのことを感じ、考えました。子どもから大人、高齢者まで、皆が生き生きと暮らしている、そんなパワーあふれる街で見たもの、聞いたもの、出会った人々、得た友達、全てがか

海外体験記



上海万博の中国国家館の前にて

けがえのない経験です。初めて空港に降り立った時の、あの期待と不安の入り交じった感動は決して忘れません。ひとつひとつ自分の目で確かめていった時間を、大切に、宝物として、今後も語学学習に励み続け、この留学体験を将来に生かしたいと思えます。



先生、クラスメートと南京大学正門前にて



中国人親友と夫子廟の前で



太極拳の授業を終えて